昭和42年12月23日第3種郵便物認可　　毎月5日・15日・25日発行
（但し　1月5日、5月5日は休刊）

ロシア東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会　東京都中央区新川1－2－12 金山ビル　郵便番号104　電話（3551）6215～9
ロシア東欧経済研究所　購読料　送料共前納・1ヵ月 1,200円　1ヵ年 14,000円

平成7年8月5日
No. 996

政局の主役に躍り出たチェルノムイルジン

はじめに

今年12月17日の下院選挙を控え、また来年6月には大統領選が予定されているロシアでは、選挙戦に向けた政治的な駆け引きが本格化しはじめている。なかでも注目されるのは、従来は実務に徹していたチェルノムイルジン首相が、このところ急速に政治力を身につけ、今後の政局の軸となる様相を呈していることであろう。そこで本号では、チェルノムイルジンの政治的台頭の背景を分析し、大統領選の行方を占った『イズベスチヤ』の記事を抄訳して紹介する（イリーナ・サヴァテエワ「チェルノムイルジンの台頭を約束するものは何か」『イズベスチヤ』、1995.6.27）。

チェルノムイルジン首相は4月、下院選に向けた政治組織をつくり自らが率いる考えであることを表明、早くも5月12日には新党「われらの家ロシア」の創立にこぎつけた。この、いわば「政権党」は、ルイブキン下院議長が糾合しようとしていた中道左派の勢力までも取り込み、一大潮流を形成しつつある。下院選挙だけでなく、今回紹介する記事でも分析されているとおり、大統領選もチェルノムイルジンの出方次第でその結果が大きく左右されることになりそうだ。

巻末の参考資料からもわかるとおり、チェルノムイルジンを現時点でのロシア政界における第一人者とみる点で専門家は一致している。エリツィン大統領の療養生活が長期化すれば、チェルノムイルジンの影響力はさらに拡大することになろう。